
地域研究シリーズ

4

中国

政治・社会

加々美光行 編

アジア経済研究所

地域研究シリーズ

4

中国
政治・社会

加々美光行 編

アジア経済研究所

地域研究シリーズ

4

中国
政治・社会

加々美光行 編

アジア経済研究所

シリーズの完結にあたって

「地域研究シリーズ」は、アジア経済研究所における地域研究の成果を、発展途上の各地域ごとにまとめて世に問うものとして計画された。第1巻の山口博一『地域研究論』が刊行されたのは1991年3月のことであった。それ以来、これまで合計12冊が刊行され、13冊目として第4巻の加々美光行編『中国（政治・社会）』が刊行される運びとなった。ここにいたるまで、種々の事情から4年という予想外に長い時間が経過した。この間に多くの方々からいただいた暖かいご支援とご批判に対し、あらためて厚くお礼を申し上げたい。

当初、このシリーズは13冊ではなく、「ソ連・東欧」についての巻を含む14冊として計画された。しかし、91年末のソ連の解体に象徴されるこの地域の予想をはるかに越えた急激な変化のために、われわれは、非常に不本意ではあるが、ソ連・東欧を扱うはずの第14巻の刊行を見送ることが賢明であるとの結論にいたらざるを得なかった。したがって、今回の第4巻によってこの「地域研究シリーズ」は13冊で完結することになる。このことは、昨94年に『地域研究論』の第2刷が刊行されたときにお断りしたことはあるが、ここに重ねてご了承をお願いしたい。特に全巻の講読を予定されていた方々にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げる次第である。

米ソの対立が世界をおおっていた時代は過ぎた。次の時代がどのようなものとなるのかはまだ判然としない。しかし、日本がアジアその他の途上諸国とどのように向き合っていくのが今まで以上に問われる時代となることは確実である。地域研究だけでそれに対する答えを出せるわけではない。しかし、例えば日本の経済協力にしても、当該の地域についての基礎的で総合的な理解をこれまで以上に必要とする段階にきている。学問の分野においても、

外交論や国際関係論，あるいは開発経済学を，地域研究との交渉のうで新しく構築すべき時期がきていると思われる。アジア経済研究所の地域研究は，対象地域によって若干の差はあるにしても，1960年代以後の日本における地域研究のかなりの部分を占めてきたものである。この意味において，この「地域研究シリーズ」が今後とも読まれ反響を呼ぶことを心から望んで結びとしたい。

1995年2月 山口博一

「地域研究シリーズ」の刊行にあたって

アジア経済研究所は日本における発展途上諸国研究の主要な機関の一つであるが、1990年に特殊法人としての創立30周年を迎え、いくつかの記念行事を行っている。この「地域研究シリーズ」の刊行もその一つである。

「地域研究」とは何を意味するかについてここで立ち入ることはできないが、それがこれまでアジア経済研究所の主要な柱の一つであったことは間違いない。創立30周年を機に、われわれは、これまでの研究の成果を振り返ることによって、地域研究とは何か、それはどのようにしてなされるのか、これまでそれによって発展途上諸国の何を明らかにしてきたか、何に役立つのか、そして、今後の課題は何かを示そうとした。その結果がこのシリーズの刊行である。

シリーズは14巻から構成され、平成3年から4年にかけて刊行される予定である。また英文による別巻の刊行も予定されている。

その第1巻は『地域研究論』と題されている。これは、地域研究の目的と方法、地域研究と社会科学、地域研究の当面の課題をあつかった書き下ろしの書物で、シリーズ全体の序論をなしている。

第2巻から第14巻までの各巻は別掲のように地域別に構成され、いずれも第I部の総論と第II部の収録論文の二つの部分からなっている。第I部の総論は、それぞれの編者が、その巻の主題の範囲でアジア経済研究所におけるこれまでの地域研究の主要な流れと成果、日本の研究状況におけるその位置づけ、今後の課題などを論じた書き下ろしの論文である。

これに対し、第II部は、その巻の主題についてこれまでアジア経済研究所でなされた地域研究の成果の中から平均およそ11～12本の論文の全文あるいは抜粋部分を原著者のご承諾を得た上で収録し、同研究所におけるこれまで

の主要な成果の概観が得られるように配列したものである。したがって第I部と第II部とはそれぞれ独自の価値を有し、併せて読まれるべきものと考えている。

第II部への収録論文の選定はアジア経済研究所の公式の判断によるものではなく、あくまでもそれぞれの巻の編者の責任でなされたものである。多くの業績の中から何を取るかはそれぞれの編者にとって最も苦心の存するところであった。第I部の叙述と第II部への収録の仕方の中に地域研究についての各編者の考えがうかがえるといつてよいのである。

収録にあたっては、編集上の統一を図り、明らかな誤植を訂正したほかは、もとの論文になんらの変更も加えていない。また、抜粋にあたっては、それがもとの論文のどの部分に当るかが分かるように工夫した。収録をご承諾いただいた原著者のかたがたに厚くお礼申し上げます。

このシリーズは、日本における発展途上諸国についての研究のかなり大きな部分を示したのものとして、各方面のかたがたに関心をもっていただけるものと信じている。

なお、英文の別巻は、第1巻および第2巻から第14巻までの第I部をもとにして、アジア経済研究所における地域研究の成果が英語の読者に理解されるように構成する予定である。

シリーズ作成の母体となったのは地域研究部におかれた「地域研究の課題と展望」研究会で、その委員は各巻の編者および清水元の諸氏である。しかし、この研究会では、それぞれの分担はあつても、シリーズを共同の所産とするために地域研究の考え方や論文収録の基準などについて繰り返して熱心な討議を行ったが、その際にはいつも研究所内から委員以外の多くの人々も参加した。また、このシリーズが30周年記念事業の一つであるということから、研究所内の各部門がさまざまな形の援助を惜しまれなかつた。ここでは特に加藤孝之、服部民夫、岩佐佳英、橋本眞治、重城忠純の各氏のお名前を記したい。さらに、アジア経済出版会社長の田中生男氏はこのシリーズに深く関心を示され、実際にシリーズ刊行の仕事を担当された同出版会のかたがたか

らは編集上いくつもの有益な提案をいただいた。30年間の地域研究の検討と整理という面倒な仕事をともかくも軌道に乗せることができたのはこれらすべてのかたがたのおかげである。ここに心から感謝の意を表したい。

平成3年3月

「地域研究の課題と展望」研究会主査 山口博一

[凡 例]

1. 第Ⅰ部の総論は編者による書き下しの論文である。その中の引用文献はおおむね著者名〔番号〕の形式で示し、文献名は総論末に「引用文献」として著者名の五十音順に掲載した。
2. 第Ⅱ部で既発表の論文を収録するにあたっては、それぞれの論文の第1ページ上部に、書名(または雑誌名、巻号)、発行所名、発行年などを掲載し、省略部分をも含めた全体の目次を掲げた。
3. 原論文は加筆修正を行わずに、発表時のままの形で収録した。ただし、編集上の統一のために以下の点に留意した。
 - ① 原論文が縦組の場合は横組に変更し、同時に漢数字をアラビア数字に改めるなど、横組用の体裁にととのえた。
 - ② 章、節などの番号はⅠ、Ⅱ、Ⅲあるいは1、2、3などの形式に統一した。
 - ③ 原論文の省略については、「【前略】……」「……【中略】……」「……【後略】」などとし、部分的な省略は「【略】」として示した。
 - ④ 図表の表示は原論文に付された番号を原則としてそのまま掲載した。原文の省略に伴い図表の番号が飛ぶことがある。
 - ⑤ 原論文中の図表を収録しない場合には、【略】として示した。
 - ⑥ 注の番号は変更せずに示した。原文の省略に伴い注の番号も飛ぶことがある。注記の方式は文中右肩に統一した。節ごとに注が付されている場合には、まとめて論文末に掲げた。脚注の場合には通し番号を付して論文末に掲げた。省略によって注の内容が不明確になる場合には、引用文献名等を補った。
 - ⑦ 原論文の明らかな誤植は訂正した。また、部分的に編者による説明が必要な場合には、【……—編者】として文中で補った。

目 次

第 I 部 総 論

はじめに	5
第 1 章 アジア経済研究所発足直前までの戦後日本の中国研究	7
第 2 章 アジア経済研究所設立当初の中国政治研究	23
第 3 章 1960年代文革前までのアジア経済研究所の中国政治研究	35
第 4 章 文革開始期のアジア経済研究所における中国政治研究	43
第 5 章 文革期60年代末期のアジア経済研究所における 中国政治研究	53
第 6 章 1970年代のアジア経済研究所における中国政治研究	69
終わりにかえて ——1980年代から現在のアジア経済研究所の中国政治研究——	83
引用文献	97

第II部 中国政治・社会論

第1章 政治過程論

- 1 中共の政治指導と官僚主義批判の問題点 徳田教之 107
——1956～7年の「自由化」政策を中心として——
- 2 中国の政治過程に関する覚え書 小林弘二 126
- 3 中国共産党の農村から都市への工作の重点移行について
——その意義と問題点—— 小林弘二 149
- 4 中国共産党における毛沢東の指導権出現の政治的文脈
——遵義会議から瓦窯堡会議まで—— 徳田教之 199

第2章 政治状況論

- 5 文化革命の理論と実践 小林文男 222
——「文化大革命」論序説——
- 6 毛沢東の階級観 矢吹 晋 248
——土地改革後の中国農村の階級分化をめぐって——
- 7 過渡期の中国とプロレタリア民主主義 矢吹 晋 259
——大躍進・文化大革命に関する試論——
- 8 文化大革命と伝統継承 加々美光行 291
——梁漱溟・馮友蘭・李澤厚の試み——

中 国
政治·社会

かがみみつゆき
加々美光行 (愛知大学法学部教授)

主要著作

『現代中国の挫折—文化大革命の省察—』(編著)

アジア経済研究所 1985年

『逆説としての中国革命—反近代精神の敗北—』

田畑書店 1986年

『現代中国の黎明—天安門事件と新しい知性の台頭—』

学陽書房 1990年

『知られざる祈り—中国の民族問題—』

新評論 1992年

中国 政治・社会

地域研究シリーズ 4

1995年2月20日発行©

定価3500円(本体3399円)

編者 加々美 光行

発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)4231(代)

発売所 アジア経済出版会

東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)1640

FAX 東京(3357)0435

振替 00150-7-143692

印刷所 勝美印刷株式会社

ISBN4-258-22004-3 C3330

地域研究シリーズ

4

中国
政治・社会